

第2回 飯山市学校・保育園適正規模等検討委員会 （議事録概要）

日時:令和元年8月20日(火) 午後6時30分

場所:飯山市役所4階全員協議会室

1 開 会

2 委嘱書交付（前回欠席委員）

3 あいさつ

委員長）

前回の委員会で委員長を仰せつかりました佐藤と申します。

副委員長には民生児童委員協議会長の池田さんということでございます。よろしくお願いいたします。

前回の会議では正式に諮問をいただき、児童生徒数など細かな数字等、資料説明を受けました。実際の協議は、本日からということになります。委員の皆さまには、それぞれのお立場からたくさんのご意見をいただきたいと思いますので、ご発言をよろしくお願いいたします。この協議を進める中では、一歩進んで二歩下がるというような論議もありますので、できるだけ論点を整理して進めていきたいと思っております。

本日の資料は大変コンパクトに整理されておりますが、内容はボリュームのあるものとなっております。限られた会議時間での協議となりますが、よりよい会議となりますようご協力お願いいたします。

教育長）

この適正規模検討委員会、いよいよ総論のご理解をいただいて、各論に入っていくわけですが、いろいろな課題が出てきた場合、教育の課題につきましては、何度も申し上げますが、絶対的な正解というものはないというのが私自身の考えであります。これが正解だからこれで進めようというのは、なかなかないわけで、そのような時は「どうしたら今の子ども達、これからの子どものためになるのか」というのが判断のポイントになるのではないかと考えております。

もうひとつ、教育というのは、端的に申し上げて非常に革新的な部分もあるわけですが、意外と保守的な部分もございます。今までどおりで良いではないかという意見・考えも当然、出てくるかと思えます。しかし今の飯山市の7校の小学校と2校の中学校をとりまく環境が子ども達にとってベストなのかを考えていただけたらと思います。

5年、10年、15年、そして今年生まれた子ども達が小学校入学することまで視野を置きながら考えていただくことが大事ではないかと考えております。

ぜひ、いろいろな思いや、学校現場に行かれたり、地域で子育てする中で、あるいは区長等の立場からいろいろなご意見をいただいて、少しでも飯山の子ども達にとって、よりよい教育環境を作りたいというのが一つです。もう一つは、7校の小学校、2校の中学校にいろいろな教育環境の格差が出ないようにしたいと思います。それが私の一番の願いでございます。ぜひ、皆様のご意見をいただきながら、佐藤委員長を中心によりよい方向に向かうと良いと思っております。本日2回目の会議となりますが、よろしくお願いいたします。

4 議 事

(1) 学校・保育園の変遷、現状、推移、課題について

①子ども育成課より（資料説明）

②各委員より（意見交換）

委員長）

適正規模・範囲について審議し検討していくということですが、適正規模を検討していくにあたり1学級20人以上、学年で複数学級が望ましい教育環境とされた検討委員会答申について、お考え・ご意見をいただきたいと思います。

A 委員）

これまで、1学年3学級の学校を経験してまいりました。飯山市において1学年3学級、4学級の規模というのは特殊な感じがしますが、私にとっては、3学級前後の学校というのは、ある意味通常の学校かな、というようには思っております。

当然、それぞれの規模に応じた教育が行われるわけですが、今、多様なニーズに応じた学校が大事にされております。発達障害に関わる通級教室、今年度からの小学校英語専科、あるいは、本来ならばもう少し学級数があれば配置される理科専科など、教育資源を有効に活用することを考えると、ある程度の規模があれば、規模に応じた加配と、ニーズに応じた学校がつくられていくことは確かかと思えます。

それから、今回の資料9pが非常に大事ではないかと思えます。平成20年を見ていただくと、飯山小は500名という児童数だったわけですが、この10年の中で300名にまで減っています。私の感覚からすると「わずか10年」ですが、他の学校も、子ども達の数も、わずか10年で変わってきている状況をみますと、やはり本当に先を見据えて考えていかなければいけないと感じます。

実際のところ、学校運営では、まだまだこれだけ急激な減少に対応できていないところもあるな、と正直感じております。やはり適正規模、あるいは規模を基に学校を作り直さないといけなかなと思っております。

委員長）

小学校PTA等の委員さんのご意見をいただきたいと思いますが、市内小学校では飯山小だけが学年に複数学級あるという状況で、そのほかの学校は減少で1クラス、またはもともと1クラスで過去に複数学級がなかった学校もあるかと思えます。生徒減少の中では、割込んできている学校がいくつかあろうかと思えます。そうした中で、規模に達していない秋津小・常盤小・戸狩小の委員の皆さんに、現状についてご意見等いただきたいと思いますが、いかがですか。

B 委員）

私自身は秋津出身ではありませんが、やはり9Pの資料を拝見しますと、過去400名ほどいた児童が、今は3分の1程度ということで、やはり何らかの対策が必要かと感じました。それから逆に一つ伺いたいのですが、昨年度の検討委員会資料も拝見しましたが、その資料の中で「城北小・城南小」というような構想があったかと思えますが、そうしたことは今回の議題では協議されないのでしょうか。

委員長）

もともと委員会に課せられた諮問の内容は、適正規模あるいは配置について協議をするということで、将来の学校案については協議する内容ではないと私自身は理解していますが、どうでしょうか。

教育長）

適正規模を突き詰めていけば、具体的な学校数に突き当たると私は思っております。それは皆様のご意見を集約していく中で、方向性が出てくると思っております。ですから、統合する・統合しない、ということではなく、皆さんが意見を交わす中で現状のままでよいのかどうか、あるいはデータをもとに、より良い環境とはどのような環境なのか、という、突き詰めていけば具

体的に学校統廃合に突き当たるものだと思います。そのようにご理解いただきたいなと思います。

B 委員)

率直に、このお話をいただいた時に、生徒数の減少ということであれば、城南校区、城北校区で固めてしまうのが自然ではないかと思っていました。ただ、それが昨年度の資料には出ていて、今年の検討委員会が始まって、まだ何も出てきていないので、何か事情があって削除されたのかと思ったのですが、そうしたわけではないということですね。

教育長)

事情があって削除したわけではありません。

C 委員)

この1学級 20 人以上、1 学年複数学級の答申は、このようにして進めていくという会議という理解でよろしいでしょうか。会議を聞いていると、統合ありきというような気がしております。私自身、一人一人がしっかり見てもらうためには、少ない方が良いのかなと思っているところもありますので、学校として1学級 20 人以上、1 学年複数学級を基に進めていくのであれば、私としては、この会議はまた違うのではないかなと思うのですが。

委員長)

おっしゃるとおりで、統合ありきであればこの会議自体、適正規模を検討する必要はないわけですね。前回の課題検討委員会では、望ましい教育環境というくくりの中で示された方向性であって、それを是とするかは、また別な話です。今後、通学方法とか子どもたちの負担なども加味されて、教育長あいさつにもありましたように「これありき」ではない。委員の皆さまのお考えやご意見をいただくなかで、方向性を見出していきたいという趣旨の会議ですので、今、おっしゃられたように小規模校のメリットも大事だというようなご意見もいただければ、それもそうだ、ということになろうかと思います。

D 委員)

戸狩小は今の中学2年生の時に、いつか 2 クラスになった時がありました。その時は1クラス 20 人ほどで2クラスだったと思います。その子たちを見ていると、実は 5 年生までは1クラスでしたが、6 年生で2クラスになった時に、子ども達の中でも、こちらのクラス、あちらのクラス、という良かったり悪かったり、こちらの担任は良くて、あちらの担任はダメで、こちらの先生は好きだけど、あちらの先生は、という子もいるし。

ちょうど、そうした状況を見れるときがありました。それまで1クラスだったところが、急に2クラスになったところで、そうした子どもたちの変化がとても見えたかなと思っています。この「1クラス 20 人以上、複数学級」というのが良かったのかな、と思ったところでした。ただ、子ども達も6年生だったんで、1年という限定もあって戸惑いもあったと思います。正直、どちらがよいのかというところは、その子たちを見た時に感じたところではありました。4P,5P に小規模、中規模のメリット・デメリットをまとめていただいている、このなかにもありますが、それぞれに一長一短があるのかなと思いました。それを、つい最近、目の当たりにすることがあったので、子ども達の環境というか、心に対する刺激という面では、良かったのかな、という気はしました。

委員長)

今、3名の委員からそれぞれお聞きしました。

それでは中学の 1 クラス 30 人、1 学年複数学級についていかがでしょうか。

E 委員)

諮問されている中学校規模の内容について、今まさに文化祭を前にして、生徒の取組の中

で複数学級のメリットをお話しできたらと思っております。

これは小学校でも中学校でも同じかと思いますが、一長一短、メリット・デメリットありますが、相手を意識しながら自分を育てていく環境を、どのようにもてるか、という中で、音楽祭の合唱発表につけても、お互いクラスのみとまりとか、相手クラスの意識だとか、そうしたことを考えながら、自分たちはここをもう少し頑張ろうと。相手を意識しながら自己を高めるといったような環境を今、まさに感じているところでございます。

D 委員さんもおっしゃられていましたが、少人数の良さもありますし、複数学級の良さもあります。そこは、小学校も中学校も人数に関わらず、私も生徒を目の前にした時には最大限の教育活動をしていくと意識して取り組んでいるところではあります。やはり中学校の立場で言いますと、生徒会という組織を考えた時に、生徒会役員を選出する、委員会活動を組織するということを考えていくと、30人くらいの学級の中で生徒会長候補者を選出しながら、選挙をし、決まった中で、みんなで協力し、さらにより学校にしようという意識が子どもたちの中に育っていくことは、正直あると思います。私の前任は栄村の栄中学校で、生徒会組織を一つ上げてみても、内々の生徒たちの中で、誰を生徒会長にするかとか、誰を〇〇委員長にするか、とか全校で考えていかざるをえないんですけれども、結局、今まで、保育園、小学校、中学校と人間関係が同じ中で育ってきているものですから、意識としてないかもしれないけれども、この子はこうゆう役だね、この子はこの役だね、という決めつけと言いますか、そのようなこともなかったとは言えないと思っています。そのような中で選挙を行わずに、信任投票というようなことを子どもたちと一緒に考えてきたことがあります。今、適正規模というのを考えた時には、飯山市の小学校、中学校、あるいは保育園の、世代を経験している子ども達にとっては、人数で決められるところは確かにあるけれども、適正となってくると複数の中でいろいろなことを経験しながら自分を高めていく、そうした環境を整えていく方が、将来、社会へでていった時に、自分というものを、どのように表現していくかということ、自分は相手からどう見られているのかということを感じながら次の世界へ挑戦していけるような気がします。文化祭や生徒会、クラス対抗で互いに切磋琢磨している、そうしたことを紹介させていただいて、意見とさせていただきたいと思います。

委員長)

中学校は2校ですので、正直、城南中と城北中とでは生徒数の差があらうかと思いますが、城南中学校については、答申内容の望ましい環境をクリアしていますが、他にどのような課題があるかお聞かせいただけますでしょうか。

F 委員)

子どもが2年生に在学していますが、3学級ありまして、1クラス26人ほどです。

私の子どもも、戸狩小学校の6年時に2クラスになりました。戸狩小の前は愛知県に住んでいました5クラスありました。なので、5クラスの環境から1クラスのところに引っ越して、すごく戸惑いました。

狭すぎて友達もできない。本当に苦しんだ小学校時代を過ごしていましたが、6年生になって2クラスになったところで、ちょっと気が楽になって、通えるようになりました。

さらに中学校に入り3クラスになったので、今はさらに過ごしやすくなって、学校へ行けるようになっています。やはり複数学級は必要と言いますか、学校へ行けなくなってしまうときに、そこしかないと苦しいという部分は、正直あります。

ただ、マンモス校から戸狩小学校へ移った時には、きめ細やかに子どもを見てもらえたので、私としては助かりました。大きな学校も経験していますし、小さな学校も経験していますので、そうした立場で飯山市の今の人数というのは私にとっては、ちょうどいいと感じます。大きすぎず、小さすぎず。まさに中規模校という部分では魅力的だと思います。

中学校が2校ありますが、子どもが吹奏楽部に入っていて、地区コンクールに出て城南中学校対城北中学校というようなプログラムが組まれると、切磋琢磨します。2校あることで上の県大会に行けるか行けないか、城北に勝った、城南に負けた、城南のあの子がうまいよね、という

ようなことがありますので、そうした部分では子ども達にとって中学校は 2 校あった方がよいのではないかな、と思います。

委員長)

城南中の委員さんは見えていませんが、生徒数は城南中と異なりますよね。将来は、またかなり減少が推測されますが、それも踏まえて城南中が羨ましいとかはありますか。

F委員)

ありません。そうしたことは、全くないです。おそらく、子どもが大人数の学校に合っていないのだと思います。あまり多すぎると、周りにのまれてしまうので、城北中学校がちょうどよいのだと思います。

委員長)

資料の中で中規模校、小規模校のメリット・デメリットをまとめていただけていますが、何を重要視すべきか、大切な要素であるとか、お聞きできればと思いますが。

G委員)

区長協議会からという立場で参加しておりますが、スケジュールでは、今後 11～12 月頃には地域住民への説明会となっておりますけれども、その時、区民の皆さんからいろいろな姿を考えるに、本日の教育長挨拶にあったような「今までどおりでよいのではないかな。今も、これできているのだから。」と思ってらっしゃる方もいらっしゃると思います。

その方々に対して、どのような説明をして4P,5P にあるメリット・デメリットを説明していくのか、今日のお話にもあったように根幹にあるのは「どうしたら今、そしてこれから子ども達のためになるか」という部分ですので、たとえば4P、5P の学習面について、たとえば小規模校のデメリットは今も飯山市で取り組んでいるような工夫をすることによってクリアできる部分はないのか、中規模校でも小規模校のメリットという部分を活かしていく事ができないのか、そうした部分の積み重ねの課程を地域の皆さんに説明することが、今のままで 5 年後 10 年後このままで良いですか、とお考えいただける部分ではないかと思います。4P,5P のメリット・デメリットについて、どれを最優先にするかは飯山市教育大綱があり、これが根幹になると思いますので、そうしたものと照らし合わせながらデメリットの部分をクリアできないのか、検討していったらよいのではないかと思います。

H委員)

ここに生まれた子どもたちの選択肢が狭まることのないように、環境のためにできないという状況がないように、ということを親として望みます。

中規模校だとクラス替えができる、多くの友達と交流できる、ということが子ども達のために良いのではないかなと思う事が一つです。それから通常学級で過ごす子供たち以外に、特別な支援を必要とする子どもたちもいますので、そうした子ども達への配慮も必要ではないかと感じました。

委員長)

木島小学校は単級ですが 20 人以上を維持できるというような状況ということで、複数学級ではないけれど 20 人以上が確保されているという推計がされていますが、そのことで、どうでしょうか。

I委員)

小規模校と中規模校との間にいるような状況で、推計で行けば、このままいけば人数は変わらずにそのままのように見えるが、やはり資料9P にあるような形で、いずれは木島小も他の飯山小学校以外の学校と同じような感じになってしまうのではないのかなと思います。

どのような状況になっても、子ども達にとって一番良い形で進んでいかなければいけないと考えております。今、私は飯山市の適正規模ということで会議に出させていただいておりますが、校舎等の老朽化もございまして、少し前に、教育委員会とPTA 会長との懇談会を開く機会があったわけですが、老朽化に起因してここを直してほしいといった要望が出ております。昨年度の懇談会では PTA 会長の都合がつかず、私は代理で出席した昨年度に引き続き 2 回目の出席であったわけですが、去年も老朽化で要望した箇所が、今年度も要望としてでました。それに対し順番で直していくという回答がありまして、順番となると、7校で回していけば 1 年生で入学した子が壊れたまま卒業していく状況にもなるのかな、と思ひまして、そうした予算がまわせないのであれば飯山市の規模からいえば、校数が多くなってしまっているのかな、子どもたちの負担を考えると考えていかなければいけないのかなと、思ひました。

統合となると子ども達の通学等の負担も増えると思いますが、学校生活の子ども達の負担も、やはり考えていかなければいけない事ですので、一概にメリット・デメリットで、4P,5P で行けば、どちらをとっても一長一短でありますので、やはり一番は子ども達のためを考えて進めていくのが一番かと思っています。

委員長)

東小学校が規模的には一番小さな学校となっておりますが、どうでしょうか。

J 委員)

私自身、東小の卒業生で、犬飼小との統合後も1クラスで、クラス替えというのは経験しておりません。そうした意味では、私の場合は中学校が第二中学校で3クラス。その時に切磋琢磨できたりですとか、クラスが複数ありますと人数もありましたので部活も何でもできました。そうすると、クラスで頑張るタイミング、部活の集団で頑張るタイミング、二つあったのが大きかったかなと思っています。

東小学校とすると、人数がいらないことによって選択肢がない。

保護者負担が大きいということもあります。少人数は少人数なりにメリットもありますが、子ども達の選択肢がないということは、一番苦しいことかなと思っています。

今、学校の数に言及してはいけないうかなという雰囲気もあったのですが、個人的に私は、中学校は一つでも選択肢が広がるのでよいかなと思っています。小学校は、1 学年に一人二人では動き出せない部分もあるので、小学校も中学校も今の校数のままでということであれば、もう少し横のつながりを設けて部活なども合同チームのようなところまでやって、人数のデメリットはないですよということまでできればよいですが、そうでなければ私は人数の少ないことはデメリットかなと思っています。

委員長)

これまでの意見の多くは「ある程度は規模を大きくする必要がある」ということかと思いますが、現状、小規模校もそれなりにメリットがあるというお話もありますけれども、それでは大きくするにはどのような方法があるのでしょうか。近い将来叶うという条件があるのでしょうか。

K 委員)

切り口によっていろいろあるかと思いますが、保護者の皆さん、子ども達の考え方もあるだろうし、そのあたり、まだ議論されていないような気がします。少数意見かもしれませんが、現状のままでという方もいらっしゃるかもしれませんが、大きくするというのであれば統合ということなんだろうけれども、数字だけの話でもありますので、その裏にある保護者の考え方や、統合することによってスクールバスあるいは公共交通の通学等の手立ても考えなければいけないとなると、市の負担もそれなりに覚悟が必要になると思います。単純に大きくするために統合ということではなく、保護者や子ども達の考えや意見を聞いていく必要があるのかなと感じております。

本当に数の理論、大人の都合だけで言えば統合した方がよいとは思ひますけれども。

L委員)

委員の皆さんの意見をお聞きして、私もある程度の規模を維持できるような方向が良いのかなと感じております。課題検討委員会では、1学級あたり小学校 20 人以上、中学校 30 人以上と答申され、これを土台に方向性を検討していくのではないかと私は感覚で思っていました。これを実現できるような方策を検討していくのかと思っております。

先程の説明で、教職員配置の關係に市費加配がありますが、それぞれ行政で加配して専門性の高い教育、あるいはまた、きめ細かい教育というようなことで加配をされているのでしょうけれど、先ほどのメリット・デメリットの中でこうした加配教員の配置をすることによって、中規模校でもデメリットをクリアできる、カバーできるのではないのかなと思います。そうすると乱暴な言い方になってしまいますが、統廃合し、ある程度の規模を維持していくのがよいのかなと思います。教育長挨拶にありましたけれども、やはり我々は子ども達のために何が必要なのか、どういう環境がベストなのかということを考えていくべきかな、と感じました。

委員長)

本日の会議では、方向性を結論付けるということではなく、意見を承るだけ、という状況でお願いしたいと思っています。そうしたご意見をいただく中で、事務局からまたいろいろな提案をしていただくことになろうかと思います。それから、保育園について答申では、小学校と連動させるくらいの意味合いになっております。これについては、いかがでしょうか。

M委員)

小学校に連動させるという点では、飯山小学校へということで、あきは保育園と、しろやま保育園の統合が決定しておりますので、保護者は納得しています。

N委員)

私も同じように統合には納得しています。

委員長)

学校区に連動した保育園というのは、どのようなことが想定され、どのような状況なのか、園長先生いかがですか。

O委員)

一番は保護者の就労支援ということで、私どもは私立ということもあり、近隣市町村からの受け入れも行っておりますので、自宅は中野市だが勤務先が飯山市なので、という保護者も多い状況です。厳密には就学校区と連動していないので、小学校・中学校・高校のような地域コミュニティの核としての位置づけ・意味づけは薄いのかなと思っております。統廃合となると、地域の人たちにとって一番の核となる施設が自動的に周辺地域に移されてしまうという痛みと言いますか負担はあるのかな、と感じております。

教員配置も含め、ある程度集約してクラス数があった方が、教育資源の活用という点ではよいのかなと思います。教員の配置や施設整備や、その後の維持も考えると、学校がなくなる地域の方の心の痛みもありますが、子どもの将来を考えますと、今でも学習指導要領の改訂で英語や理科、プログラミングなど学びも変わってきていますので、それに対応していくには、保育園の立場から僭越ですけれども、統廃合は必要なのかなと思います。

P委員)

あきは保育園としろやま保育園の統合は、先ほどの意見にもありましたように決まっておりますけれども、飯山地区は、私立保育園も幼稚園もありますので、1校に1園というのは難しいところもありますが、今の子ども達が5年10年経った時の小学校、中学校の老朽化もありますが、それに伴って保育園も老朽化していきますので、考えていかなければいけないのかなと思

います。

副委員長)

民生児童委員協議会の立場から言いますと、子どもから歳を重ねたお年寄りまで、全てまとめて見守るという立場ですが、私個人の考えでは、今の子どもの教育の場ということで、このような検討会は良いことだなと思っています。本当に基礎的な学びの場を見直す、そして見直すための視点を変えなければいけない時期に来ているのではないのかなということを感じております。各地区というよりも、地区を越えた飯山市の一市民として、将来的な子どもの学びの場を設定するために、今、この場で多くの委員さんが意見をおっしゃってくださって、なるほどと思っていますが、改めて、大きい小さいということではなく、子どもが将来、大人になるための基礎的で重要な学びの場、保育園、小学校、中学校。また、統合したことで飯山高校が甲子園に出場できた実績もありますので、たくさん子ども達が、たくさん集まって、切磋琢磨するということを本当に実際に感じております。

そうした意味で飯山市民一人一人が、子どもの学習の場、教育の場をどのような視点で見ているのか、というところが重要ではないかと思っています。今、保育園の、かわいいあの子たちが成人して、壮年、そして中高年になって、老いて死んでいく、その重要な場を、より良い場所であるというのは一定の規模で、沢山の方々と接触しながら飛び立っていくことが非常に望ましいかなと思っています。ぜひ、より良い形の統合がなされていくと、みなさんの本意でそうした方向に進んでいくといいなと一民生委員の立場として感じているところでございます。

委員長)

本日は意見を聞きっぱなしというところが多かったのですが、次回委員会に皆さんの意見を反映させて、それぞれ妙案をいただきたいなと思っています。

それでは、他に何かご意見はございますか。なければ、私の進行はここまでとさせていただきます。本日はありがとうございました。

事務局 岩崎課長)

長時間にわたり、ありがとうございました。

(2) その他

事務局 岩崎課長)

その他ということで、議事録は飯山市ホームページに公開しております。今回の議事も内容確認の上、公開させていただきたいと思います。よろしくお願いします。

5 その他

・次回(第3回)委員会

事務局 岩崎課長)

当委員会の進め方ですが、1Pにございますように次回9月、適正規模及び新たな配置について意見交換・提案ということで、日程は委員長と調整の上、資料の事外送付等についても必要に応じ送付させていただきたいと思います。

事務局としましては9月24日の週で同じ時間帯に予定したいと思いますが、よろしくお願いいたします。事務局としましては以上でございます。

6 閉 会